

学生に向けた 下水道管路メンテナンスの紹介 「管路更生大学」の公開デモ施工報告

No-Dig Today 編集室



地下ライフラインなど社会インフラは、建設からメンテナンスの時代にシフトしており、特に下水道管きょにおいては47万Kmという膨大なストックを抱えています。

日本大学生産工学部土木工学科（千葉県習志野市）では社会のニーズにあう実践力を備えた学生の育成を教育目標のひとつにあげ、(一社)日本管路更生工法品質確保協会と東京都下水道サービス(株)と連携し「管路更生大学」という総称で、管路メンテナンスについての講義を行っています。2018年10月30日にその授業の一環として、日本大学の敷地内において、管路更生工法のデモ施行が行われました。

今回参加したのは、シームレスシステム工法、SPR

工法（自走式）、FRP光硬化取付管ライニング工法、3Sセグメント工法の4工法で、実際に現場で活躍する技術者を招き、各工法の概要説明を交えながら学生の目の前でデモ施行を実施しました。

上下水道、雨水管など、生活に欠かせない地下に埋設された管路は、近年、老朽化対策が喫緊の課題となっています。老朽化した管路を修繕・修復する管路更生の施工は、常に身近で行われている工事でありながら、普段はその内部まで見ることはできません。今回の管路更生工法などの非開削技術を学生やマスメディアに公開することで、次世代を担う技術者に非開削技術をアピールでき、将来的に人材確保のきっかけになる機会となりました。（No-Dig Today 編集室／安藤雅洋）

■ シームレスシステム工法



ハンマーで叩き、シームレスライナーの硬化状況を確認

■ FRP光硬化取付管ライニング工法



収納ドラムから押し出されたライナーが既設ますを通過する様子

■ SPR工法（自走式）



通水しながらの施工が可能なので水槽内で実施

■ 3Sセグメント工法



分割されているセグメント材を既設管内で円形に組み立てる